

第3巻 編集後記

予定より遅れましたが、恵寿総合病院医学雑誌の第3巻を無事発刊することができました。いつもながら、投稿いただいた方々に深く感謝致しますとともに、査読委員、編集長ならびに編集委員の皆さんの並々ならぬご努力に敬意を表します。

さて、掲載論文数は、創刊号が12編、第2巻が19編で、今回は25編となりました（総説6編、原著6編、症例報告2編、短報1編、恵寿通信10編）。特に、総説は、神野理事長を始めとして、これまでで最も多い計6名の方々に執筆していただきました。編集委員会が、当院の現状を考慮して重要性が高いと考えられるテーマを選定し、それぞれの分野のエキスパートの方に執筆を依頼しました。それを受けて、執筆者の方が、それ相応に勉強し直し、なおかつ、対象となる読者を意識して、十分噛み砕いた論文にすることを心がけて執筆されています。従って、それぞれの分野の Up to date がこれほど解りやすく解説されて、ためになる文献は、身近にはないと思います。私も一通り読ませていただいて、目からウロコが落ち、あるいは、いままでの疑問が一気に解消され、腑に落ちることが多々ありました。それぞれのテーマの関係者の方々は勿論のこと、多少なりとも興味を持った方は、ぜひ、一読していただければと思います。

また、今回から、過去に発刊された「恵寿通信」を収載することになりました。「恵寿通信の掲載にあたり」と題して、これまでの経緯を編集責任者の真智先生に書いていただきましたのでお読みください。実は、一時、「恵寿通信」の発刊が休止になったことがありました。その際、読者（主に能登地域の医師）から、「どうして止めた」、「楽しみにしていたのに」、「ぜひ再開して欲しい」など、多くの勇気付けられるお声が寄せられ、復刊した経緯があったそうです。このように「恵寿通信」は大変好評で、現在も月1回の連載を継続しています。ただ、今までは毎月発刊された限りで、記録性に欠けていたことがありましたので、そのまま忘れ去られることが危惧されていました。そこで、まず、第1号から第10号までを本誌に収載することにして、今後も順次掲載していく予定です。記録を残すこと以外にも、「発刊時に読もうと思ってそのままになっていた」、「一度は読んだけれど読み返したい」、などの場合にもお役に立てば幸いです。また、執筆者にとって、記録として残されることが少しでも励みになればと期待しています。

最後に、短報も今回が初めての掲載となります。短報は、本誌の投稿規定にもあるように、いわば症例報告の簡略版です。学会や研究会で発表したけれど、それ切りだと記録にも記憶にも残らずもったいないと思われる時や、ただ論文にするにはちょっと辛いというような時に積極的に挑戦していただくよう希望します。特に、論文執筆の初心者や研修医には登竜門として活用していただきたいと思います。

編集顧問 東 壮太郎